

9. 町々の天王祭

※尾張年中行事絵抄:文化・文政期(1804~1829)を取材

三之丸天王祭とは別に、町々では宝永年間(1704~1711)より天王様を祀り、提燈を点し、天王祭を始めた。提燈で文字や形を作る町もある。名物の笹提燈は延享3年(1746)より立てられた。

※天王崎天王祭では灯籠や獅子舞が始まり、宗春公時代の享保17年(1732)には車樂船の祭が始まった。

尾張年中行事絵抄によれば、「城下町東部の建中寺前は尾張徳川家菩提寺の門前町として古くから栄え、種々の作り物を出し、天王祭を行っていた」事が記載されている。

「或年には、住吉景を作り大きな反橋をかけたり、東都の浅草寺の亭を写して仁王門を作る等、沢山の作り物を拵えていた」との記載がある。 ※作り物とは、町々が様々な趣向で造る見世物である。

出来町天王祭は五日の試樂では作り物、六日の本祭は山車祭をしていた。 ※尾張年中行事絵抄より「機関人形を乗す大車三輛、町中を引く。今夜試樂作り物、翌六日は車まつり也」との記載から分かる。この様に文化、文政年間になると、藩主斎朝のお祭り好きが幸いして山車祭りが認められる町が現れた。

天保3年(1832)に、情妙寺前が湯取車の曳行を始めた。

建中寺前は同年、若宮祭玉屋町の古車の購入の交渉が纏らず、旧来の天王祭を行なってきた。

「注」 文政7年(1824)の「青窓紀聞」による御城下近在町村の山車の所有状況
巾下(12輛) 広井(10輛斗) 下小田井(4輛) 出来町(3輛) 杉(1輛) 押切(2輛)
浄明寺前(1輛) 土呂(泥)町(3輛) 益屋町(1輛) 車ノ町(1輛)

■天王崎天王祭の車楽船



宗春公時代の享保17年(1732)に船祭りが始まった

■天王祭の作り物(広井村)



御城下近在の町村では作り物による天王祭が始まる
※名古屋村、広井村、建中寺前、出来町等